

02：ジョブローテーション制度によるステップアップ

倉敷市では、多様な部署を経験することで、幅広い知識と視野を身につけることを目的に、ジョブローテーション制度（P.6参照）を採用しています。2人の先輩職員（事務職・技術職）の経歴を紹介します。

■ステップ1：生活文化部市民課窓口係 ～行政サービス向上を目標に～

市民課では、窓口で住所異動の受付、住民票や戸籍などの証明書の交付事務を担当していました。毎日多くの方が様々な手続きに来られますので、正確に事務をすることはもちろん、必要な手をスムーズかつ気持ちよく提供するにはどうしたらよいか、という行政サービスの向上を目標に頑張りました。そのために、お客様と会話をしながら、こういった手続きが求められるかを判断する力を養い、窓口対応のスキルがレベルアップしたと思います。

■ステップ2：税務部資産税課管理係 ～市税の重要性が分かる仕事～

最初の異動で、固定資産税（土地や建物等にかかる税金で、市税の1つ）の課税を行う資産税課に配属され、市の収入の約半分を占めている市税の重要性について学びました。

資産税課には、実際に現地に行き土地や建物の調査をする係もありますが、私は納税義務者を確定する事務などを担当していました。住所や戸籍に関する知識があったことで、新しい仕事にも早く慣れ、前の部署での経験が異なる部署でも生きてくことを実感しました。

■ステップ3：保健福祉推進課 ～施策の企画・調整を学ぶ～

今の部署では、これまでの分野と全く異なり、保健福祉施策の企画や調整をしています。

例えば、市では、様々な部署が子どもや高齢者などの福祉サービスを担当していますが、それらを地域福祉の視点から見直し、地域での支え合い・助け合いの大切さを広めるために、「倉敷市地域福祉計画」という計画をまとめる仕事もしています。本当にたくさんの部署が関係する計画なので、多くの部署と連携しながら1つの計画を作っています。難しさを感じることも多いですが、日々学びながら仕事をする楽しさがあります。



保健福祉推進課
寺岡 郁恵 【事務職】

<経歴>

（ステップ1）

平成14年4月 生活文化部市民課

（ステップ2）

平成19年4月 税務部資産税課

（ステップ3）

平成25年4月 保健福祉推進課

■次のステップへ

“魅力あるまちづくり”の一端を担えるよう、これまで得た様々な知識や経験を活かしながら、さらなるステップアップを目指します。



建築部住宅課
高谷 哲夫【建築技術職】

ステップ1

■採用当手を振り返って

最初に配属となった公共建築課の仕事は、公共施設の設計・工事監理をすることでした。建築技術職ばかりの職場でみんな仲が良く、分からないことがあっても先輩から丁寧に教えてもらえました。

大地震に備えて、多くの建物の耐震化が進められると、次第に仕事量が増えてきて、大変な時もありました。しかし、最初の丁寧な指導のおかげで、仕事に対する自信が付き、計画的に仕事をすすめる力もつけることができたと思います。

プライベートでも、職場の先輩方や同期の仲間と積極的に交流したりと、今の人間関係のモチになっています。

<経歴>

（ステップ1）平成16年4月 建築部公共建築課

（ステップ2）平成23年4月 建築部建築指導課

（ステップ3）平成25年4月 国土交通省へ派遣

→平成26年4月 建築部住宅課

ステップ2

■2つ目の職場で学んだこと

建築指導課の仕事は、建築確認などの審査業務だけでなく、住宅の耐震化の補助、危険な状態になっている建物に対する指導など多岐にわたっています。

私は指導係に配属されたのですが、公共建築課の時と大きく違ったところは、公共の建物ではなく民間の建物に対する仕事なので、当然、窓口に来られる方のほとんどが市民の方になった、というところですね。専門用語に頼らない分かりやすい説明を心がけ、自分の理解も深まったと思います。

■成長を感じるとき

採用当時は、教えてもらうばかりだった自分が、次第に教える側になり、当時の先輩に一つ近づけたようなうれしさがありました。それと同時に、自分も良き手本、頼れる先輩にならないと、と身が引き締まりました。

ステップ3

■国で学んだことを今の仕事に活かす

国土交通省では、住宅総合整備課で公営住宅をはじめとする公的賃貸住宅についての仕事をしました。この1年間で学んだ「住宅政策はツールであり、住まい確保の支援という目的のために運用するもの」という考え方を、今の住宅課で活かしながら仕事をしています。

■これからの自分

今まで経験した部署を振り返ってみると、公共施設、民間建物、住宅という、ハードの違いはあっても、そこにはいつもそれを使われる市民の方がいて、市民の方と接してきたんだということが感じられるようになってきました。

建築技術職として働くフィールドはハード面ですが、その先には、使う/住む人がいることを常に意識して、今後も、より良い倉敷にしていけるための仕事をどんどんしていきたいです。